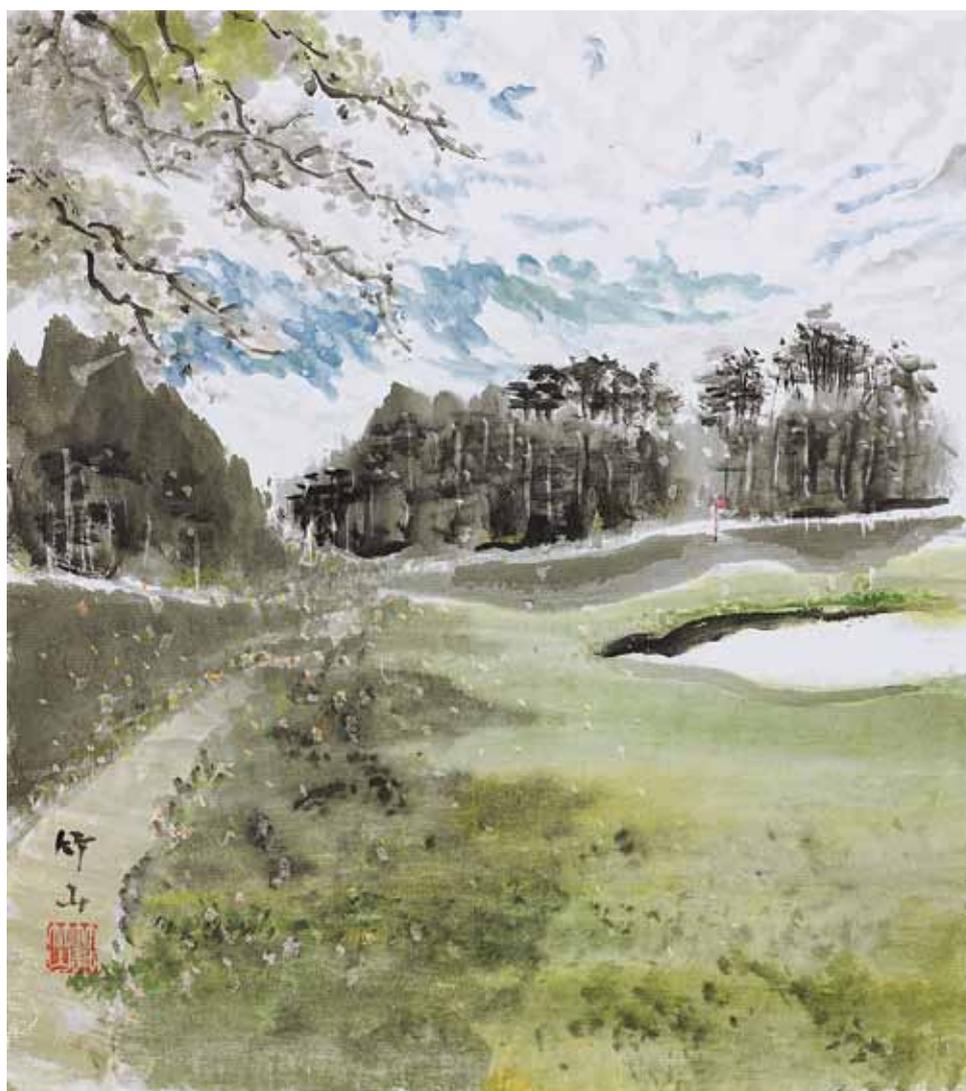


福 井 県 医 師 会

だより

第711号 令和2年(2020)9月



青い空に向かって

福井市 竹越 忠美

表紙写真説明：青い空に向かって

福井市 竹越 忠美

What a shot!

(ゴルフとは一生楽しめるゲームである)という定義もあるが、80才を超えた現役ゴルファーはこれを証明している。ラウンドを終えて冷静にその日を振り返ってみると、Golf is a game played between your ears. すなわち頭でプレーするゲームでもある。

マーシャ・クラッカー

醫 縫 録

福井県における全県下統一した 対策型胃内視鏡検診システムの構築

福井県がん検診精度管理委員会胃がん専門部会長
福井赤十字病院消化器センター長



山 崎 幸 直

わが国は胃がん検診として長期にわたって胃X線検査を実施してきましたが、2016年2月の厚生労働省がん検診指針の改定により、新たに対策型胃内視鏡検診が実施可能となりました。これを機に胃がん内視鏡検診を導入する自治体が急増していますが、そのほとんどが市町単位での導入であります。福井県では全県民に平等かつ安全で質の高い胃がん検診を提供する目的で、全国的にも稀である全県下を対象とした胃内視鏡検診システムを構築したのでその概要についてご報告致します。

胃がん内視鏡検診認可予定の情報を得て、2015年度に福井県医師会、郡市区医師会、福井県健康管理協会の協力下で、胃がん内視鏡検診ワーキンググループが結成され、内視鏡個別検診における精度管理・安全管理・検査手順の標準化を目的とした内視鏡実施要項が策定されました。

2016年4月3日および4月10日には全県下の個別検診登録機関を対象とした必須責務研修会と位置付けられた内視鏡指導研修会（福井県がん検診精度管理委員会胃がん専門部会主催）を開催しました。嶺北会場は両日ともに福井市（福井県医師会館）、嶺南会場として4月3日は敦賀市（市立敦賀病院）、4月10日は小浜市（公立小浜病院）に各々会場を設け、嶺北および嶺南の2会場をビデオ回線で結び、内視鏡実施要項に基づく個別内視鏡検診の概要、内視鏡撮影方法等の説明を行い、同時に双方向性の質疑応答を行いました。

2016年～2017年度は郡市区医師会内でダブルチェックを依頼し、2018年度からは県下全域で実施された内視鏡検診画像を福井県医師会館に集め、ダブルチェックの中央化を実現しました。

2017年度には県内の消化器内視鏡専門医を中心としたダブルチェック医、約40名を選出し、2017年12月17日に福井県医師会館において精度管理の質の維持を目的としたダブルチェック説明会を開催して、画像評価における注意事項およ

び評価基準等の周知確認を行いました。

なお、全県下の内視鏡画像および画像評価結果等の集配は福井県健康管理協会の協力で行われ、ダブルチェック中央化初年度となる2018年度はダブルチェック医2名をランダムペア化して、1回60から70例程度の読影による目合わせを行い、2年目である2019年度のダブルチェックは読影医1名で担当しています。

2016年から2018年度の胃がんX線個別検診の結果は総受診者3,779名、要精検者349名、要精検率9.2%、精検受診率73.1%、発見胃がん10例、胃がん発見率0.26%、陽性反応的中度2.87でしたが、内視鏡個別検診では各々、21,238名、2,196名、10.3%、90.2%、119例、0.56%、5.42でした。

内視鏡検診における胃がん発見率はX線検診の約2倍、発見胃がん症例数は約10倍であり、対策型内視鏡検診は順調に運用されているものと考えています。

福井県で全県下を対象とした胃がん内視鏡検診システムの構築が可能であった理由は、以前から全県下を対象とした5つのがん検診体制（胃がん・肺がん・大腸がん・乳がん・子宮頸がん）が確立していた点、全県人口が80万人弱であった点、県下全域を対象にダブルチェック医を選出した点、全県下の検診画像等の集配が可能であった点などが挙げられます。

関係各所の多大なご協力により、福井県における全県下統一した対策型胃内視鏡検診システムは比較的スムーズに導入され、ダブルチェックの中央化の整備および精度管理も維持されています。今後もより安全かつ高精度な胃がん検診を目指してまいりますのでご協力の程、宜しくお願い申し上げます。